

議事録

会議の名称	平成30年度第1回加東市総合教育会議
開催日時	平成30年7月18日(水) 午後2時00分～午後3時30分
開催場所	社福祉センター2階レクリエーション室
<p>議長の氏名 (市長 安田正義)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>&lt;出席委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育長 藤本謙造 ・教育長職務代理者 田中寿一</li> <li>・教育委員 藤本洋二、神崎芳美、藤原哲史</li> </ul> <p>&lt;欠席委員&gt;</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>&lt;まちづくり政策部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり政策部長 柳博之 ・企画政策課長 小林勝成</li> <li>・企画政策課副課長 下岡正裕 ・企画政策課係長 小林寿泰</li> <li>・企画政策課主事 藤崎純平</li> </ul> <p>&lt;教育委員会教育振興部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興部長 西角啓吾 ・教育総務課長 菅野勇一</li> <li>・教育総務課副課長 片嶋美紀 ・学校給食センター所長 簗田順子</li> <li>・生涯学習課長 芹生和也 ・中央図書館長 田中美紀子</li> </ul> <p>&lt;教育委員会こども未来部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども未来部長 広西英二 ・参事兼学校教育課長 藤原路寛</li> <li>・こども教育課長 壺井初美 ・小中一貫教育推進室長 柴崎俊之</li> <li>・発達サポートセンター所長 片山公子</li> </ul>	
<p>1 議 題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加東市教育大綱における各施策の平成29年度の取組状況</li> </ul> <p>2 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度第1回加東市総合教育会議 資料</li> </ul> <p>3 会議の経過</p> <p>⇒別紙「平成30年度第1回加東市総合教育会議・会議の経過」のとおり</p>	

(別紙) 平成30年度第1回加東市総合教育会議・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
委員	<p><b>1 開会</b>  <b>2 市長あいさつ</b>  <b>3 協議</b></p> <p>(1) 加東市教育大綱における各施策の平成29年度の取組状況          施策1～3</p> <p>事務局説明</p> <p>この度かとう学という新しい教科ができるということですが、私自身、この兵庫県に来て三十数年になります。加東市の歴史も少し自分なりに分かったと思うのですが、やはり私の家が神社だからでしょうか、皆さん来られる方、情報が間違っていることがあります。それを一回一回説明してきたのですが、そのかとう学ができることによって加東市に住んでいる子供たちが民話とか伝説とかそういうものではなくて、しっかりとした情報に基づいて加東市の歴史を学ぶことができる、それも学年に応じてきちんと学ぶことができる、それは本当に私たち施設をずっと継承していかないといけない、守っていかないといけない者にとってはすごく良いことだと思います。4年生で加東遺産巡りをされるのですが、加東遺産ではないところにもたくさん良いところはあります。</p> <p>加東市の食育に繋がるかもしれないのですが、加東市の名産である桃とかお茶とかアユとかそういうものもかとう学で勉強して、子供たちが外に出たときに、加東市で昔こんなものを食べたなということで、やはりふるさと加東を思い出してくれることもあるし、加東で学んだことは良かったなと思って加東市に帰ってきてくれるのではないかなと思います。少しでも加東市を好きになって、好きになった子が、外に出て勉強することになるかもしれないですけど、やはり加東市が良かったと思い、帰ってきてくれるのではないかと、私はそれを期待しています。</p> <p>私は香川県生まれで、香川と言えばうどん、あん入り餅とか有名なものがありますが、加東市も加東市だけに拘らずに、兵庫県という大きな区切りとして、兵庫県の名産としても何かいい食べ物を見つけて、それを加東市のふるさととして発信していてもいいのではないかなと思います。私としては、このかとう学というのを勉強してもらえるということは、家の仕事においても、これから加東市に住む者としてもすごく良いことだと思います。</p>
議長 (市長)	<p>加東遺産を選定するときにも、色々な話があつて、ああいう形にしましたけど、確かにほかにも素晴らしい素材があつて、そこもPRをしていきたいし、まずは市民がそれを知ることが大事だと思っています。今年、教育委員会の一つの取組で、多摩美術大学で加東の文化財を9月から10月の中頃まで、1カ月半、展示させていただくことになって、市外の方にもそういうことを、よく知ってもらふ機会ができたのは良かったと思います。あれを見て、また現物を実際に加東市へ行って見てみようじゃないかという、そんなふうになれば非常に嬉しいなという思いで、今からその日が来るのを楽しみにしています。</p> <p>それから、まずはそこに住んでおる者がもっともっと加東市のことをや</p>

	<p>っぱり知っているべきだと思います。よそにあるものにすぐ目がいて、よそにはこんなものがある、だけどうなのか、加東市にもこんなものありますよというたら、初めてそこで気がつくようなことがあって、もっとも加東市の良いところを知ってほしいものです。我々のPRの仕方が大事なのだろうと思います。三草茶は、非常に社高校の生徒も頑張ってくれて、いろんなどこで結構PRはできておるなという、そんなふうに思います。おっしゃられているように、加東市だけに捕られるのではなしに、広い視野でできたらいいかなと、そんな思いはします。</p>
委員	<p>かとう学について、私は本当に大きな期待をしています。単にかとう学という名前がついているのですけれど、究極は加東市民としての子供を育てるといことだと私は思います。加東にある歴史であったり、資源であったり、文化であったり、産業であったり、そういったものを基軸にしながら、加東市民として生きていく子供をどう育てていくかということがこのかとう学に脈々と流れている、根底に私はあるのではないかなと思います。その上で、自分のふるさとがこういうふるさとで、だからふるさとが大好きですと言える子が出てこればいいと思います。この度の西日本の大災害もたくさんの学生がボランティアで参加をしています。本当にふるさとを大切にしたい、ふるさとにちょっとでも役に立ちたいという学生たちの思いや願いがやっぱりそこにあるのだと思うのですけれども、そういうふるさとに貢献したいとか、ふるさとに何かをしたいという思いを持った加東市民の子供を育てていくことがこのかとう学の私は最も大切にしたい、期待したい部分と思っています。知識としてこんな歴史があるとかこんな産業があるとかこんな特産物があるとかということでは止まらずに、そこからこんな加東市を作っていきたいということに、最終的には繋がっていくかとう学であったらいいなと思います。</p>
委員	<p>小中一貫については、今年から自然学校の方で、全てのプログラムで東条東と西と一緒に活動をしたり、また出前の授業であったり、現場の中では着々と進んで来ていると思います。</p> <p>そうした中で、今回かとう学が出たのですが、多分これからの加東の教育が目指すのは、グローバル化ということとともに、教育においては、地域に根差して地域から学ぶ教育というものを一層大切にしていって、事務がいます。愛しながらも世界に出ているような、そういう活動的な子供がまた加東に戻ってきてくれることがかとう学と合致する部分があるというふうに思います。市立の学校で学んでいるというのは、地域の中で交流もあり、地域の先人たちの様子も学んだり、歴史も学んだり、誇りも学んでいく部分がやっぱりなければ、自分たちの町の良さということに気づかないことになるのかなというふうに思いました。</p> <p>小中一貫校ができるに当たって、学校がなくなっていくところもあるのですけれども、そういう人たちは自分たちの学校の伝統とか地域の文化とかそういうものも残してほしいという、思いも強く持ってられると思いますので、そういう意味でも応えるのがかとう学であるというふうに思いますし、ぜひ歴史的、地域的なプライドを育むかとう学というものを作っていただきたいと思います。その内容については、先ほど言いましたように、偉人や先人の業績とか、それは地域のいろんな考え方、思想みたいなものへの共感であるとか、生活とか風習とか礼儀作法とか、この地域ならではのものというものもあると思いますし、また自然、科学分野とか、それから</p>

<p>議 長 (市長)</p>	<p>産業経済分野で今の加東市のまちづくりを自分が果たしながら、どんな町に作っていくのかということも、自分もそこに参画させながら、小中の一貫の教育の中で、自分の子供たちが生きがいとして持てるようなそういうかとう学に繋げていただけたらと考えています。</p> <p>我々は、この地で育って、何か生活をしておると、今あるその風景等がごくごく当たり前のような状態になってしまっておる部分は相当あるのではないかなと思います。全てがごくごく当たり前、けれども他の地域から見れば全然違う部分もあると思うのですが、全てが当たり前の状態で終わってしまっておると思います。もう少し今言われた歴史的な、あるいは地域的なプライドっていうのもやっぱり大事にしていくべきことだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>そのふるさとの件については、ここで育っておる子供たちが副読本等を参考にして、ふるさとをよく分かってくれたら良いなというのは感じております。</p> <p>それと、小中一貫校の整備の説明もあって、今事務局が説明したとおりで、皆さん一生懸命取り組んでおり、今のところ順調にいつていると思っております。開校準備委員会を年に何回か開催して、その中で一般の方の御意見もいただきながら進めていただいておりますので、今の段階では良い状況ですけれども、3年足らずになりましたから、これから詰めていかなければならないことがたくさんありますし、教育委員会ともこれからまだ議論をしていかないかんこともあろうかと思っておりますので、その節にはまた市長にも、教育長から御相談があろうと思っておりますけど、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今藤本委員のほうからありましたけど、整備のほうが随分進んできて、順調にいつていると思っておりますけれども、先日東条地区の小中一貫の報告会がございまして、その中で参加をさせていただいたのですが、1,000年に一度という豪雨についての御意見をいただいて、1,000年に一度の場合は、今度の小中一貫校の場所が水に浸かるのではないのかと、そんなところに学校を造ってもいいのかというような御意見をいただいたように思っています。本当に子供の命は何よりも第一に優先しなければいけない、1,000年に一度にも対応しなければいけないという住民からの御指摘やと思うのですが、1,000年に一度の災害を考えたときには、学校だけでなく、まちづくり全体を考えないといけないです。1,000年に一度の場合は、東条川流域全部が浸かってしまうので、町自体が高台に移転するとかというとてつもない話に変わってくるのかなと思ひながら聞かせていただいたのですが、とても現実的ではないです。100年に一度であれば、今の小中一貫校の場所は大丈夫だということをお聞きしておりましたので、1,000年に一度についても、1,000年に一度しかないということではなくて、1,000年に一度のことがもし起こったらどう対応するのかということをやっぱり考えておくことも大切ではないかなと思います。それは、教育委員会だけが考えることではなくて、市全体で、また防災課を中心としながら、今回の西日本の豪雨についても、突然豪雨があるわけではなくて、前ぶれがあり、徐々に水が増し、避難が始まり、避難勧告があり、避難指示があるという順番があろうかと思ひますので、1,000年に一度の豪雨の場合はこのように対応するという防災の避難計画みたいなものを市自身が防災課を中心</p>

<p>議長 (市長)</p>	<p>としてきちっと作った上で、市民にお示しをするということがやっぱり大事なのかなということはこの度の報告会の御意見を聞きながら思ったようなところですよ。これからの課題と捉えています。</p> <p>1,000年に一度、それは起こらないということはないし、いつ来るか、それも分からないし、そういう1,000年に一度の雨が降ればこんな状態になるということは、これはもう絶対に認識をしておかなければならない、そういう事態になるということはどこかにきちっと持っておかなければならないことです。その場合に、もし遭遇したらどうするのかという、まず逃げるのが一番大事なことだろうというふうに思っているのですが、いわゆる防災のマニュアルもきちっと整備をしながら、それに対応していかなければならないなという、そんな思いであります。</p> <p>ただ、マニュアルというのはページ数の分厚いもので、これをずっとふだんから中身を知っておくというのも、これもなかなか大変なことで、まずは、逃げるということが一番にしておきたいなという、そんな思いであります。</p> <p>この間の、豪雨と同じ時期の九州北部豪雨、このときもその地域の方々が何十年と住んでいるけれども、こんなことは初めてという、そんなことが現実に起こっているのです。だから、1,000年に一度が起こらないということは絶対にないし、本当にいつ来るかわからない。まずは、とにかく逃げるということが一番にしたマニュアルのようなものを作り、大雨の場合は、比較的早い段階から正確な情報が入りますので、それにきちっと対応できるようにしていきたいという、そんな思いであります。</p> <p>ただ、怖いのはやっぱり地震かなという、これはもう何の前ぶれもなしにやってくる。先日のあの地震のとき、携帯電話に知らせが飛んできた時には、恐らく発生していたと思います。普通は発生する前に知らせるのですけれども、この間はもう既に発生した後で知らせがあったと思っておりますが、いずれにしても、地震となるとなかなか対応が難しいです。けれども、大雨の場合はある程度早くから正確な情報が得られると思いますので、それに向けてきちっと対応をしていけるように取り組みをしてまいりたいと、思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>かとう学についてそれぞれ委員さんのほうから期待すること等々おっしゃってもらったのですが、やっぱりふるさとを知っているようで知らない部分があるのではないかなということも思います。一番ふるさとを感じるのには、景色や自然だとか色々ありますけど、やっぱり人と人とのつながりの中でふるさとを感じているのではないかなと思います。例えば、見守り隊ということで、当初は不審者警戒や通学の交通当番をするのですけれども、実は見守り隊をしていただいている方がやりがいを感じられたのは、やっぱり子供たちとの交流だったように私は思います。一方、子供もあのおっちゃん、おばちゃんに小学校のときお世話になったということは、ふるさと意識の中で必ず僕は残っているだろうと思います。人や物について加東市を知ること、加東市を好きになること、そして何か役に立ちたいなと思うようなことが、かとう学で実践できるように進めていきます。</p> <p><b>(2)</b> 加東市教育大綱における各施策の平成29年度の実施状況 施策4～6</p>

<p>委員</p>	<p>事務局説明</p> <p>近年、英語には随分力を入れておられるなという感じがします。実績もここ数年で上げておられて、たくさんの方がこういう数字について御存じになればいいと思います。</p> <p>日常会話ができる生徒を目指すのは今後の目標になっておりますので、英語以外の教科の部分で総合等でも英語での活動を取り入れたり、これから工夫してできるのではないかと思います。</p> <p>それから、食育については、和食の日をする等の色々な取組をされて、子供も関心を持っていますが、やっぱり子供が一番よく食べるっていうのは、自分たちで作った野菜とか食べ物是非常によく食べます。栽培活動と食育を結びつけて、自分たちで作った食べ物を食して関心を持ってもらうのも一つの方法と思います。</p>
<p>委員</p>	<p>本当に英語教育については様々な取組がなされて、様々な手立てで子供たちに英語教育がされているというのはとても良いことだと思っています。大事なことは、英語にどっぷりと浸るといことが私は大事なかなと思います。そういう意味では、ネイティブの外国の方をたくさん雇用していただいて、ALTも含めて5名の方によって小・中学校の子供たちの指導に当たっていただけるといのはとても有難いことだと思っています。とにかく会話に慣れ親しむということは子供たちにも十分伝わって、子供たちも楽しみながら、英語を文字ではなくて耳から学んでいくというのはとても大切なことだと思います。こういった環境を加東市内で作っていくことは、とても大事なかなと思いますので、より充実ができるよう、応援したいと思います。</p> <p>続いて食育ですけど、食育が入ってきたときに、なぜ学校で食育なんだって、本当に学校に性教育や喫煙防止教育や薬物乱用防止教育が入ってきて、学校現場は受ける一方で、数えたら数え切れないほどの教育を学校がしていかなければいけないことに少し戸惑いを感じているというのも現状です。でも、命の根幹にかかわる食育はとても大事な問題です。食育が家庭で担い切れなくなったことの裏返しかなということだと思います。地域で昔遊びがなくなったら学校で昔遊びをし、地域でしめ縄づくりをしなくなったら学校でしめ縄づくりをし、そういったことの延長線上に食育もあるのかなと思います。反対に今度は食育をもって、地域や家庭に働きかける私は良い材料かなと思います。こういう時代だからこそ、こういう家庭環境で食が十分満たされない子供たちがたくさんいるということも事実で、子供食堂なんかができたりするような時代であるからこそ、学校の食育を通して家庭や地域にさまざまな啓発をしていける機会として頑張っていたら有難いと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>英語教育も先ほどの食育の話もそうですけれども、子供たちが楽しく勉強する、あるいは食べる楽しさを感じてもらう、こういうのが一番大事だと思っています。食育に絡んでですけども、給食センターのほうでは今大変衛生に配慮していただいておりますし、地元食材を、地産地消ということで、意識的に取り組んでいただいておりますし、お話を聞きますと、残菜もかなり減少傾向になってきて、良い状況になっております。給食に携わっていただいている方々には感謝申し上げますとともに、これからももっともっと取り組んでいただきたいなと思います。</p>

委員	<p>英語教育ですが、私が委員をさせていただいてもう7年目になります。学校訪問と学校の様子を見ると、すごく子供たちが落ちついて勉強するようになってきました。ということで、私が入ったときはちょっとにぎやかというか落ち着きがないかなという思いがありました。英語教育はその時点で加東市は少し力を入れていたので、英語教育に力を入れるよりは日本語教育に力を入れたほうがいいのではないかなと思いました。まずコミュニケーションが一番だと思ったので、日本語教育を先にしてから英語教育と思いましたが、今の時代、やはり小さいときから英語教育もしないといけないという時代になってきたのと、加東市がすごく落ちついてきたので、今こそ英語に力を入れてもいいのではないかと思いました。されていることもすごく良いですし、ALTの外国人の方の英語というのが私は特に良いと思います。引き続き、こういう活動をしてほしいと思います。</p>
学校教育課参事	<p>外国語活動について、今年の30年度、31年度は、32年度から新学習指導要領で小学校外国語活動がさらに35時間増えますし、3、4年生も外国活動が増えます。今は移行措置期間ということで、年間15時間増えました。増えた分の対応は、今のALTは現状のままですが、地域人材を今活用しているところです。実際に昨年まで教員として勤められていた方や学校に勤めている非常勤の職員を活用して、今年については4校対応しております。それで、現状は大丈夫ですが、ただ2020年度からはさらに増えますので、今後考えていかなければいけないことだと考えております。</p> <p><b>(3) 加東市教育大綱における各施策の平成29年度の実施状況 施策7～9</b></p> <p>事務局説明</p>
委員	<p>ICT機器を活用した教育については、本当に早くからたくさんの機器を入れていただいて、充実をした教育環境を整えていただいていると思います。他の市町と話をしても、多分一番整備状況は進んでいると思います。そういう意味で、今日報告いただいたように、職員がICTを活用して指導できる教員の割合も国に比べて随分高いという状況が作られていることは、機器を整備していただいているからこそできている現状だと思います。機器は日々進歩して、変わっていきますので、新しく更新していくというのはとても予算が要る、大変なことだと思うのですが、これからの次代を担う子供たちがこういった機器に慣れ親しみ、使いこなせるようにするということが最終的な目標だと思います。AIが進んで、AIによってたくさんの人の仕事が奪われるとよく言われるようになりましたが、奪われるのではなく、AIを上手に活用して生活を豊かにしていけるような子供たちを作っていくという意味でも、小学校、中学校の間からこういった機器に慣れ親しんだ状況を作ってやるということが大事だと思います。そういう意味では、加東市はそういう環境が充実していると思いますので、引き続き予算的にも大変だと思いますけど、充実していけたら良いなと思います。</p> <p>それからもう一点、インクルーシブ教育システムの確立で平成29年度に、「はぴあ」ができて大変だと思います。随分お世話になり、活躍をされている様子は耳にしています。本当に御苦労さまです。知り合いと話をしたときに、加東市のインクルーシブ教育はとても充実しているので、加</p>

<p>議長 (市長)</p>	<p>東市で子供を育てたいということで、小学校入学前に加東市へ転入してきた家庭もあると聞いています。そういう意味で、こういったワンストップ型の「はぴあ」ができて、インクルーシブ教育の先進地区としての加東市がさらに充実していったら良いなということを思いますので、頑張っていたらと思います。</p> <p>ICTの課題のところで、文科省の方針に今もなかなか国の水準には達していないという、こういう今表現をされておりますが、公立学校の情報化のランキングというのがあって、加東市は県内では1位という、そんな話があったのですが、これを見て1位で水準に達していないというのはどうしたことやったのかなと、そんな思いで今聞いていました。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>国のほうの水準ですけれども、毎年上がっていきまして、加東市では学校で1クラス分程度の機器の設置ですが、国のほうではおよそ3クラスに1クラス分程度の機器の設置となっています。一番と言われていたのは、学校、生徒用のパソコンではなく、電子黒板の設置数になります。ちなみに、電子黒板ですが、今のところ158台でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、学校訪問等でICTの使用状況を聞く限りにおいては、去年よりも今年のほうが先生方も子供たちに分かりやすい使い方をされているような感じを受けました。だんだん慣れてきて、勉強されていると感じました。それと、先ほどの説明の中で、2020年度に小学校のプログラミング教育が導入されることですが、実際にどうなのかは私もよく分かりませんが、生涯学習課の公民館授業で、プログラミング講座をやっていただいて、子供たちが20人ほど集まって参加し、プログラムのやり方等の勉強をしておったところへのぞきに行ったのですけれども、1からプログラムを組んでいくような作業でありますから、かなり難しいだろうなと思っていたのですけれども、実は子供たち、そういうのを察知するのが非常に早くて、結構楽しみながらやっておりました。実際に今度2020年度からどういうふうな取組になるのかはまだ分かりませんが、そういう取組もだんだん進めてく必要があるのではないかと思います。ICTも色々な機器があって、難しいと感じております。</p> <p>それから、インクルーシブ教育のほうで今説明ありましたように、29年度の相談件数は延べ1,738件で重複している方もたくさんいらっしゃると思うのですが、ちょっと手狭かなという感じはしていました。新たな取組としてスタートしていただいた内容ですから、相談を受ける方にとっては有難い施設ができたと思っております。</p> <p>ただ、相談件数も多いですし、また新しい取組も検討しておりますので、庁舎の近くでかつもう少しスペースのとれるようなところが確保いただければ、もっと有効な活動ができるのではないかなと思いますので、よろしく御配慮をお願いしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど施設のお話も出ました。ただ、学校現場に去年までいた者として、相談体制が充実して早く相談に乗っていただいており、保護者も喜ばれていることをお伝えしておきます。</p>
<p>委員</p>	<p>ICT機器を使った授業ですが、私はその機器が全部あるから、揃っているからいいとは思いません。やはりこの機器を使いこなせてこそ意味が</p>



<p>教育長</p>	<p>あると思います。あくまでも先生が授業をする中で、ICT機器というのは道具の一つに過ぎないので、それをうまく使って、効率よく子供たちに教えられるかというところが大事だと思います。</p> <p>教職員がICT機器を活用して指導していく、資質を高めていくというのは大事なことだと思うのですが、そこだけではなく、子供自身の情報活用能力をどう高めていくかということに、舵を切っていきたいなと思います。また教育委員の皆様方にお示しをして検討していただくことになろうかと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p><b>4 その他</b></p> <p>学校訪問の私の感想を申し上げておきます。全体的な話で、各学校、それぞれ違いはあろうかと思いますが、まず中学校ですが、全体的にとっても規律が良く授業にも集中しておりますし、とても明るい雰囲気での風景が見られました。それから、ノートの整理も非常にきちりやっておる生徒が多かったと思います。小学校につきましては、低学年はとっても元気な子供たちが多くて良かったと思います。高学年になるほどよく授業に集中しておりますし、全体的に見ましても、とても良い雰囲気の中で授業をやっておりました。</p> <p>それから、今年初めてこども園を訪問させていただいたのですが、実際には0歳児から5歳児までをこども園で保育をしたり、授業をしたりするわけですが、0歳児からの状況、保育をしている状況を見ますと、本当に大変だなという思いをいたしました。それと、授業をなさっておる先生方に対する印象ですが、とても先生方も明るい雰囲気を出し、子供たちが関心を持てるような授業の進め方を努力されておったように思います。全体的にははっきりとした口調で授業をされておる先生がほとんどでしたが、若干話し方で慣れ親しんだような、ちょっと言葉が崩れたような感じの話し方をする先生も中にはいらっしゃったので、校長先生あるいは教頭先生が来られた反省会の場で、御注意をお願いしたいということをお願いしました。</p> <p>それともう一点、その反省会の場でお願いしたのは、学校訪問をさせていただいた状況を見る限りは、とてもいい雰囲気ではあったのですが、学校によってやっぱり様々な問題も抱えておられるだろうと思いますので、ぜひ校長先生、教頭先生も含めて学校内の情報の共有化を徹底していただくようお願いしたところであります。</p>
<p>委員</p>	<p>色々な面で、地道であるけれども、着実に成果を上げているというのがこの加東市じゃないかと思います。大きな特徴を一つっていう形になると出しにくいのかも分かりませんが、教員の資質、子供への教育の内容、学校の状況、学習支援、市からの援助で、他の市の教員から羨ましがられるような声を私も何度も聞きましたので、今後ともよろしくお願いをしたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>私の知り合いの若いお母さんが聞いたところによると、家庭で学習を見てないという話を聞きます。それは、学校に任せているのだと、私はそう思ってしまう。今すごく加東市が落ち着いていて学校に任せばいいかなというお母さんの手抜きなのか、向上心がないのか、危機感がないかな</p>

委員	<p>と思います。そういう時代なのかもしれないのですが、家庭において子供たちの勉強する姿を見て、もう少し目をかけてほしいなと思います。加東市は恵まれているからそうなるのかもしれないのですが、私としてはもう少し危機感を持って、子育て世代も向上心を持って、熱心に家庭学習もしてほしいと思います。</p> <p>加東市の介助員であったり、アシスタントであったりというその配置につきましても、多分県下でナンバーワン、子供1人当たりの職員の配置についても本当に県下でナンバーワンだと思います。どこの市もうらやましがする人員配置をしていただいて、手厚い指導ができるからこそ、障害を持っている子供がいるから、加東市で育てたいのだと言って引っ越して来られる方がいるというのはそういうことだと私は理解をしています。予算もあり、本当に大変なことだとは思いますが、やっぱり加東市の特徴として、特色としてインクルーシブ教育の先進地加東として胸を張って言えるような加東市になったらさらに良いなと思っていますので、市を挙げて応援していけたらと思います。よろしくをお願いします。</p>
教育長	<p>今年、初めてこども園の学校園訪問に行かせていただいて、本当に教育の大切さを改めて感じました。というのは、おむつを履いているゼロ歳児から中学校卒業までの義務教育の15年間というのは、大きく成長するときです。そういったときの学校教育というのは、とても大切になるので、学びと子供の支援を、頑張らないといけないなという思いを改めて今年感じました。</p> <p>午後3時30分 閉会</p>